

みんなで未来をつくろう 錦江町「MIRAI」づくりプロジェクト

問合せ▶ 錦江町まち・ひと・「MIRAI」創生協議会
☎ 0994-25-1001

MIRAI 寺子屋塾で「統一模試」を実施

8月21日(金)、錦江町MIRAI寺子屋塾生を対象に5教科の統一模試を開催しました。テスト問題は鹿児島県教育振興会の小学生学力コンクール、中学生統一模試を利用しました。子どもたちは、模試中はとても真剣に取り組み、テスト終了後の休憩時間は一斉に答え合わせを行うなど、本当に一生懸命に取り組んでいました。

5教科の模試結果を通して、全国的に見たレベルや得意・苦手分野など自分の学力を客観的に知ることができます。解説配布後は、分からないところはオンライン自習室などを活用しながらしっかり定着させていきましょうね!

※新型コロナウイルス対策として、田代支所・文化センター・役場本庁の会議室に小中学生を分けて実施しました。



「東北食べる通信」編集長の成影さん講演

食べる通信とは、生産者を特集した雑誌に、その生産者が作った食べ物がついてくる食べ物付き情報誌です。一次産業の課題は私たち消費者につながっているということ、東北の生産者や食べる通信の読者の声を紹介しながら、熱く丁寧に語っていただきました。

参加者からは「働き方や、時間とお金の使い方を考えるきっかけになった」、「味も覚えていない食事もある。まずは町内の農家さんを知ることから始めたい」など感想を共有し考えを深めました。未来塾では、これからも老若男女の学びの場を皆さんと一緒につくっていきます。



8/22に開催したオンライン講演会には16名が参加しました。

町内小中学校の先生方と一緒に「SDGs」

8月25日(火)、町内の教職員など希望者30名を対象に「2030SDGsカードゲーム」体験を通してSDGsについて学ぶ勉強会を開催しました。大根占小の吉國校長先生が「学習指導要領にも、各学校のグランドデザインにも取り入れられているSDGs、少しでも先生方の学びに役立てれば」と企画してくださいました。このゲームはSDGs17の目標を達成するために、現在から2030年までの道のりを体験するもので、参加者からは、「前半では自分の人生のゴールを達成することだけを考えていたが、みんなの呼びかけや世界の状況メーターで、視野を広げて世界を見ることができた」「今日の学びや気づきを子どもたちにも伝えていきたいし、子どもたちにもSDGsを学びきっかけとして体験させたい」などの感想をいただきました。



錦江町フォトコンテスト

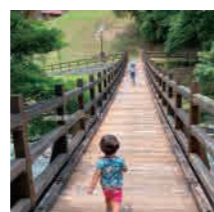
9月のお題は「田舎で子育て」です。ここ錦江町で子育てする時間をどのように感じていますか?? 投稿お待ちしております。10月のお題は「秋といえば?」です。

▶ 応募方法 町ホームページで
ご確認ください(右記QRコード)



▶ 応募締切 **9月30日** まで

▶ 受賞作品発表 10月中旬予定



最優秀賞

sakura.sakura.jp 様

子どもたちに残したい町の良いところ
「私は、さみしくなると両親が眠る錦江町田代に帰ります、庭から見える棚田と裏の湧水。そして新風呂にいやされまた日常にもどります!! 今年も、みんなで集まる予定でしたが残念です、、、残したい物は、この緑、水、空気です!!」とメッセージをいただきました。

7月のお題「夏の思い出」

まちの話題をピックアップ

フォトニュース!

ピカチュウが仲間を誘いながら目的地を目指す物語を考え、全8ページの絵本に仕上げた森航平くん(田代小1年)。森木朋佳准教授☺



今回の子育て支援講座は10月25日(日)に運動講座を予定。詳細は10ページ。

鹿児島純心女子短期大学の協力で実現した 世界に一冊だけの絵本づくり講座

8月23日、町内の親子23人が参加して「絵本づくり講座」が開催されました。錦江町と鹿純心短大が結ぶ包括的連携協定の一環で実現した子育て講座は、親子を対象に年3回の開催を予定しています。初回は、世界に一冊のオリジナル絵本づくり。講師を務めた森木准教授は、「イメージを言葉に変換する力を育てる。子どもたちが本に興味を持つきっかけになれば」と期待を寄せました。

この2日間で絆を強めた22人。完成したポストカードは、感染リスクのなか、強い使命感を持って医療に従事する県内医療機関へ届けられます。



1泊2日の体験学習が育む「生きる力」

次代を担うリーダーを育成

8月26日から2日間、団体活動を通して心豊かな青少年を育てる「インリーダー研修」を開催し、町内の小学4年生から中学生までの22人が参加しました。木工クラフトやカヌー体験、調理実習のほか、今回は新型コロナの最前線で戦う医療従事者へ応援カードを作成。錦江中1年の水口理沙妃さんは、「みんなのためにコロナと戦っている。感謝の気持ちを届けたい」と想いを込めました。

※感染防止対策を行いながら、撮影時のみマスクを外してもらっています。

田代小児童が受け継ぐ「上柴立棒おどり」 夏休みの練習成果を運動会で披露

昭和10年、田代尋常小学校で公式奉納された「上柴立棒おどり」。太平洋戦争で一時途絶えましたが、昭和58年に上柴立自治会が復活させ、現在も活動を続けています。平成15年以降は田代小5・6年生が伝統芸能継承の一環として、夏休みを中心に練習。保存会の南園高樹会長は、「子どもたちのおかげで活動が続いている。一人でも多く伝えていきたい」と決意を込めました。



経験者の6年生が5年生に教える場面も。「互いに協力して成長している。本番が楽しみ」と目を細める南園会長。9/20の運動会で披露。

コロナ禍でも安心して子育てできる環境を 4月28日以降の新生児に給付金

コロナ禍でも安心して出産や子育てができるようにと、今年4月28日以降に子どもが生まれた家庭を対象に支援金の給付がスタート。8月11日には対象となる3家庭を町長が訪問して手渡しました。5月に第2子を出産した富尾菜乃花さんは、「感染が広がるなかでの出産は、面会や立会い制限など不安続きだった。子どもたちを守るためにも予防を徹底したい」と心境を語りました。



「たくましく元気な子に育ってほしいと、初夏に黄色い花が咲くナツメの花言葉『健康』から採り名付けた」と由来を話す父、龍平さん。